

今年の取り組みも終了しました

来年は年初から支部の宣伝計画などあり

1月14日誕生日記念宣伝行動成功へただちにダッシュ！

「『早く再審を』が世間の常識」

名張事件大須観音定例宣伝行動
12月28日に今年最後となる、通算
161回目の大須観音宣伝行動がおこな
われました。

年の瀬を思わせる風のないうららかな
陽ざしの中、21名が参加しました。

「事件は来年で50年となります。8
5歳を迎える高齢の奥西さんを救って
ください」「検察による際限のない引き伸
ばしは許せません。名古屋高裁はただ
ちに再審開始を」とハンドマイクで訴え
ます。

「きょうの中日新聞にも大きく報道
されていましたね」「もう50年です
か。早く助けてあげてください」「こ
の間テレビで見ましたよ。頑張っ
てください」など多くの方が声をかけ
てくれました。

冬休みということもあって、中学生、
高校生なども次々に署名。やはり若い
人、女性の方の協力が多いようです。

今回の取り組みはメーテレ（名古屋
テレビ）と朝日新聞が取材してくれ
ました。

1時間足らずの行動で、121筆を
集めることができました。

※中日新聞の記事は2面に掲載しま
した

●支部の宣伝計画

- 1月1日 津島支部 津島神社前で
- 1月5日 尾北支部 針綱神社前で



今回も女性が多い



横断幕と新しい宣伝カー



青年も気軽に署名



若いお母さんも協力



メーテレと朝日が取材



訴える末広百代さん



ゼッケンをつけて訴え



同時に4名の署名もザラ



尾北支部の山田さん



最後にみんなで記念撮影

名張毒ぶどう酒事件

名張毒ぶどう酒事件の再審請求をめぐる差し戻し審判が、出口の見えない展開になっている。無罪を訴える奥西勝死刑囚は来年一月で八十五歳。弁護団長の弁護士、鈴木泉さん(六三)愛知県一宮市は「こんなにかげんな死刑判決で命を奪うことは許されない。一日も早く再審を開始すべきだ」と訴える。

鈴木さんは一九八二(昭和五十七)年、当時五人だった弁護団に加わった。二十八年たち総勢三十四人に。「一人だったらくじけていたかも。希望を失わなかったのは寝食を忘れて取り組む仲間のおかげだ」と話す。事件をめぐる闘いで、最も衝撃を受けたのは九七年一月、第五次再審請求に対する最高裁決定だった。弁護側は、専門家に依頼した新しい鑑定で、ぶどう酒瓶の王冠に残された傷と

ニュース
前線
'10年回顧

「これぞ冤罪」再審叫ぶ

奥西死刑囚の歯型が「一致または類似する」とした従来の鑑定の証拠価値を大きく崩した。しかし最高裁はそのほかの状況証拠から「奥西死刑囚の犯行」と結論づけ、請求を棄却した。「死刑判決の根拠となっ

弁護団長 進まぬ審理に憤り

た決定的物証を崩したのに、なぜ再審開始決定を出せないのか。鈴木さんは今でも当時の最高裁の判断に憤りを感じている。

二〇〇五年に出された再審開始決定は、〇六年に取り消された。「裁判所は何とかして死刑判決を維持しようとしている。これぞ冤



木30記
月8司法
る8司
見8司
会8司
記者8司
泉8司
日8司
者8司

名張毒ぶどう酒事件 1961
(昭和36)年3月28日、三重県名張市の公民館で開かれた懇親会で、ぶどう酒を飲んだ女性5人が死亡した。殺人容疑などで逮捕、起訴された奥西勝死刑囚は一審で無罪。二審で死刑判決を受け、72年に最高裁で確定した。第7次再審請求で再審開始決定が出たが、その後に取り消された。最高裁は今年4月、審理を名古屋高裁に差し戻した。

罪だと確信を持った」と言っている。現在、名古屋高裁で続く差し戻し審の最大の焦点は、奥西死刑囚が捜査段階で「ぶどう酒に入れた」と告白した農薬「ニッカリン」の事件当時の鑑定の再鑑定実施の方針を示している。高裁はことし八月末に再鑑定実施の方針を示している。新たな刑事弁護を